

今治市中心市街地 グランドデザイン

まちづくり基本計画 概要版

編集・発行
今治市 総合政策部 企画政策局 魅力都市創生課
〒794-8511 愛媛県今治市別宮町一丁目4番地1
TEL : 0898-32-5200 FAX : 0898-32-5211
E-mail : miryokutosi@imabari-city.jp

2025 年 月
今治市
IMABARI CITY



V

令和7年度～
まちづくりの実践・連携の広がり

自転車まちづくり

戦略的インフラ整備

エリアマネジメント

みなと再生の取組

今治の魅力発信

令和5～6年度
議論の輪を広げながら
グランドデザインを作成

中心市街地グランドデザイン
(まちづくり基本計画)
(2025)
「まちづくりを進めていく意思としての将来像」

市民

国・県・市

学生

子どもたち

現代の都市再生の取組

中心市街地まちづくり市民会議
令和6年度

中心市街地
創生デザイン会議
令和5～6年度

公共施設等再編部会
公共空間再編部会
令和5～6年度

エリア別
まちづくり市民会議
令和6年度

市民

中心市街地の課題

市民

令和4年度
まちづくりを実践している
市民の皆さんとの議論をスタート

中心市街地まちづくり構想
(2023)
「まちづくりを実践している市民の皆さんの
こうなっただいいなを描いたもの」

関係者ヒアリング

今治の地域資源・歴史文化の調査

令和4年度

R6 11.30 中心市街地まちづくり市民会議

まちづくりのコンセプトと基本的な考え方

■まちづくりのコンセプト

本市の中心市街地がめざす将来のまちの姿について、本市の地域文化、現状と課題、上位計画での議論、都市再生の潮流を踏まえて、次のコンセプトを設定しました。

素晴らしい地域資源、地域文化に恵まれている今治の中心市街地では、様々な住民、企業、行政の協働によっ

て個々の価値を磨くとともに、それらがひとつつながりの魅力として、地域住民に愛され、国内、海外に発信されていくことが大切です。コンセプトには、海、港からはじまった今治で、みなで新しいひとつつながりの魅力をつくっていくという思いが示されています。

中心市街地まちづくりのコンセプト

つながる みなと・まち・いまばり
Walkable Port City IMABARI

■基本的な考え方

上記のコンセプトを実現するため、具体的な6つの基本的な考え方を示しています。

- ① 今治らしく、多世代が暮らしやすい中心市街地の再生
- ② 公共施設の再編・既存ストックの活用による都市の魅力の創出
- ③ 交通機能の再編・新モビリティの導入による回遊性の向上
- ④ 官民連携・エリアマネジメントの推進による持続可能な体制づくり
- ⑤ 地域文化を活かした観光・交流の場の創出
- ⑥ 安心・安全な環境づくりと自然・災害との共生

ネットワーク空間特性とアクティビティ分析

■現況分析の概要

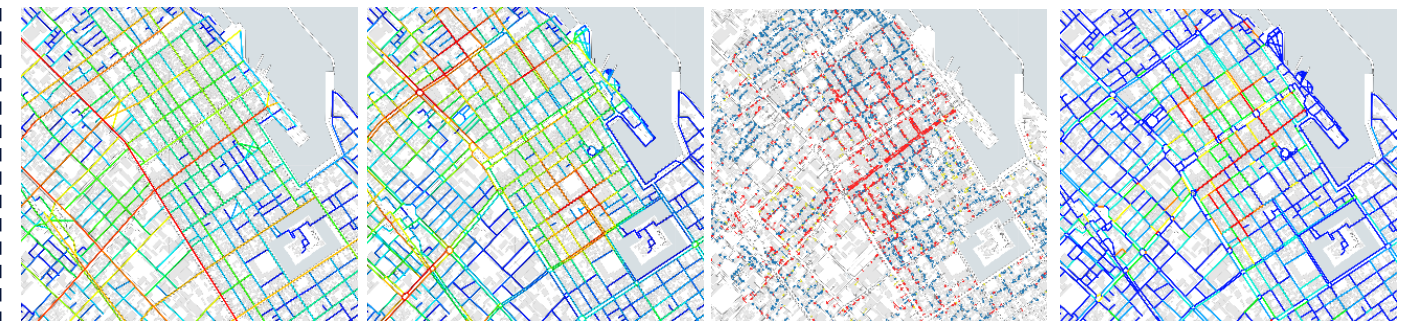
人の行動は空間の「つながり」に大きく影響を受けるとされており、その特徴を客観的にとらえる分析手法の実施と、計画への反映が求められます。

そこで、今治のまちが、現時点でどのような都市空間構造となっているのかを理解するために、実地におけるいくつかの観察調査および空間特性のデータ化、可視化を行い、それぞれについて特徴や課題を考察し、各エリアのデザインノートをはじめ、本計画へ反映しました。

ネットワーク空間特性の分析

：街路や場所の特性を、接続的・連続的に動きが広がるための「つながり」の観点から定量化、可視化し、様々な現象のベースとなるまちの「かたち」の特徴を明らかにする手法

⇒整形に近いグリッド構造を持つ今治市において、街路空間や場所ごとの特性を「つながり」の観点から丁寧に読み解くことで、都市の「ツボ（要所）」を探りました。



アクティビティ分析

：現在の機能状況として表れる人々の行動・アクティビティから、まちに来る・居る「人」がどのような行動をしているのかを把握するとともに、潜在的なニーズや行動の可能性を探る手法

⇒一見すると人通りがまばらな印象の今治市において、まちに来る・居る「人」の活動の観点から調査分析し、顕在化していないパブリックライフを可視化しました。

【調査日時】

- ①2024年 7月13日（土） 10:00～19:30
- ②2024年 7月22日（月） 10:00～19:30

【調査内容】

- 1) 歩行者量分布調査（ゲートカウント）
- 2) 歩行行動調査（トレース）
- 3) 滞留行動調査（スナップショット）



歩行者量分布（ゲートカウント） 歩行行動（フォロ잉） 滞留行動（スナップショット） 調査時の様子

ネットワーク空間特性やアクティビティの分析の結果を各エリアの計画内容へ反映しました。

将来ビジョン（案）

蒼社川周辺（計画中）

かつての城下町の外堀で、中心市街地の縁を流れる蒼社川は、貴重な自然環境を生かして市民がアクティビティを楽しんだり、ふらっと立ち寄り憩える公共空間として“まちの縁側”のような場所となることを目指す。

今治城内堀沿い／金星川（外堀跡）沿い【提案】

海とつながった城下町の足跡を辿る散歩道

ミズベ・ウォーク

今治城周辺

海水を引き込んだ堀は、様々な生き物の貴重な生息環境となっている。堀沿いの散策路を充実させつつ、港まで連続した歩行者空間を形成し、港－城の回遊性を高める。

今治内港沿い【提案】

港から城までをつなぐ海沿いの散歩道

ミズベ・ウォーク

MICE機能の整備（計画中）

海事関係をはじめ、さまざまな分野での展示会やイベント等を誘致可能な会場を中心市街地内で検討中

はーばりー・今治港周辺

『「交通」の港から「交流」の港へ』を基本コンセプトとしたみなと再生事業により整備された。月に2回おこなわれるせとうちみなとマルシェでは、多くの人が集まり賑わいが生まれている。

複合庁舎（計画中）

市庁舎移転とともにまちに開かれた施設・広場を検討中。

今治地域
地場産業
振興センター

今治国際ホテル

ネウボラ施設（計画中）

子育て世代の相談所として、また屋内外で子どもが遊ぶことのできる場所としてまちに開かれた施設整備を検討中。

芝っち広場【提案】

日常からイベントまで大勢の人が集う祝祭広場

ドンドビ・フェスプラザ

広小路（今治停車場線）【提案】

緑陰と賑わいあるみち広場

グリーン・アベニュー

駅前広場【提案】

しまなみ海道・今治の玄関口に複合機能を備えた交通拠点

しまなみモビリティ・ハブ

サイクリングターミナル

今治市役所

庁舎機能の移転を検討しており、移転後は文化的施設として丹下健三の設計した建築を活かしたリノベーションを検討している。

市役所前広場【提案】

丹下建築と一体で活用を図るまちに開かれた市民広場

タンゲ・アートプラザ

広小路（今治港線）【提案】

緑豊かな環境軸として現市庁舎-港をつなぐシンボルストリート

グリーン・アベニュー

寺町周辺

寺社は音楽等のイベント会場としても活用されており、今治にしかない文化創出の場としても期待される。老朽化した木造家屋や空き家の状況を把握しながら、歴史的な街並みを活かした拠点づくりが求められる。

美保町周辺

古くからの漁師町として、海沿いに多くの船が集まる風景は海外からの観光客にも注目されている。歴史ある石積みの防潮堤が残るなど、既存資源を活かしたまちづくりが求められる。

新町商店街【提案】

新たなプレイヤーのチャレンジの場として活用

ラボ・ストリート

今治商店街【提案】

子どもの遊び場となる屋根付き広場

プレイ・ストリート

各エリアのデザインノート

A 今治港－内港－今治城



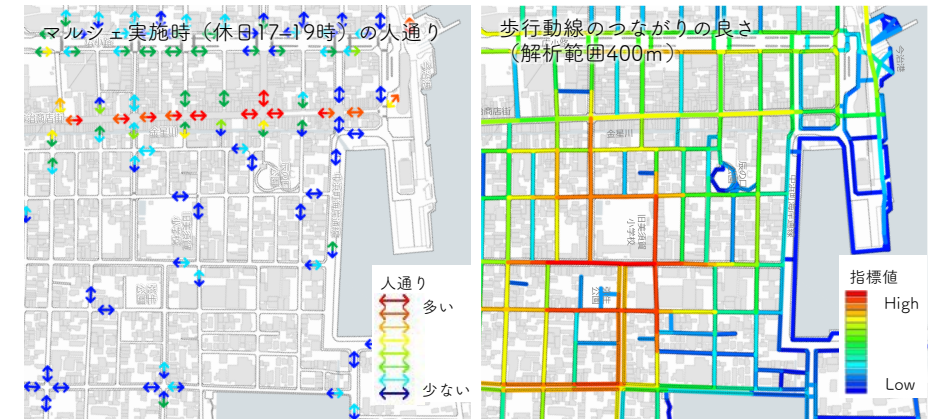
エリアの現状分析・課題

- 今治港周辺は、「みなと再生事業」「せとうちみなとマルシェ」の実施、みなと交流センター「はーばりー」の日常利用など、にぎわい創出の拠点となりはじめているが、街とのつながりが弱い。
- 今治港から内港は、海を臨む貴重な水辺空間であるが、今治港と今治城をつなぐ視線が通っておらず、堀と海をつなぐ水路が活かされていないなど、水辺を活かした回遊性の向上や各拠点の活用が望まれる。
- 今治城は、今治を代表する主要観光地であり、環境調査やまちづくり活動の場としても活用されているが、周囲と連携が少なく中心市街地の賑わい創出の拠点として機能を十分果たしているとはいえない。
- 海側の各拠点は距離的には近いが、視覚的つながりが弱く、歩行動線的には遠い関係となっている。



港周辺でのマルシェの賑わい

内港の船溜まりの風景



今治商店街と港周辺は多くの人通りが見られるが、広小路や今治城方面など周辺への波及は少ない。

はーばりー周辺や海岸通線は、動線のつながりが弱く、広小路・新町商店街と距離的には近いが、歩行動線的には遠い関係となっている。

エリアの公共空間デザイン戦略

- A-①：「みなと再生事業」「せとうちみなとマルシェ」の実施、みなと交流センター「はーばりー」の利用によりにぎわい創出の拠点となり始めている今治港と、広小路・新町商店街との歩行者のつながりを強化する。
- A-②：今治港と今治城の視線を通るよう視点場の整備を進め、港から見た今治城のランドマーク性を強化し、両者の間の往来を増やす。
- A-③：今治内港の水辺の風景や海と堀をつなぐ水路などの歴史資源を活かした水辺の散歩道の整備を検討する。
- A-④：来訪者の多い今治城のアプローチ空間を周囲の街との接続を考慮したかたちで改善していく。

都市基盤整備とエリアマネジメントの検討例

今治港 … 内港 … 内堀 … 金星川(外堀跡) … 泉川



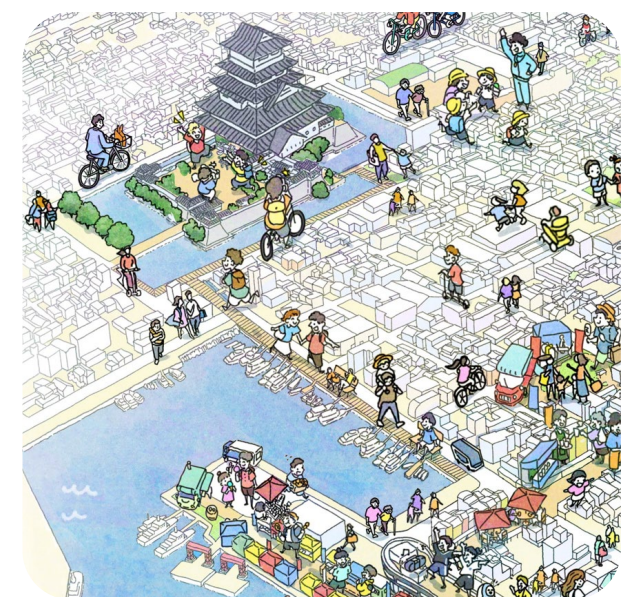
都市基盤整備の提案

- 今治港、内港、内堀、金星川、泉川など、多様な水辺空間を活かし、歩行者空間や滞留空間を整備

想定されるエリアマネジメントと課題

- 港エリアや今治城周辺等のアセットマネジメント
- 船舶+モビリティ利用など、交通結節の中間サポート
- みなと緑地PPPの導入等官民連携による都市空間の魅力化
- 広面積のアセットの活用方法の検討
- 港エリアの平日と週末利用の異なるニーズへの対応 など

(凡例) ○想定されるエリアマネジメント ●課題



今治港～内港～内堀の将来イメージ

各エリアのデザインノート

B 広小路(今治港線、港側)・新町商店街



エリアの現状分析・課題

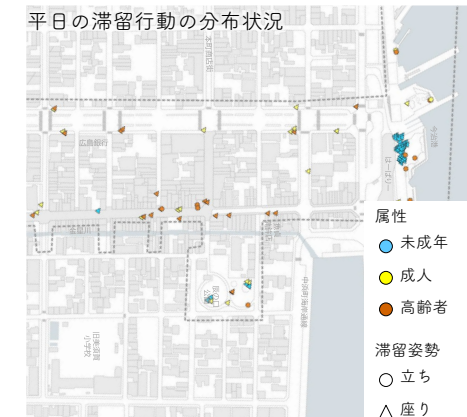
- ・ 広小路（今治港線）は、港につながる広幅員街路という空間の特徴を活かした、今治のシンボルとなる街路整備の可能性がある。
- ・ 広小路は、軸線方向、横断方向共に歩行者が少ない。広小路の港側はロータリーとなっており、歩行回遊性の拠点として設えられていない。
- ・ 新町商店街は、店舗が集積しているが、シャッターの閉まっている店舗が多い。屋根が無い開放感がある。近年、特徴のある良質な飲食店など少しずつ新規店舗の出店がみられ、チャレンジの場としての活用可能性がある。
- ・ 商店街南側の金星川は、地域の歴史を伝える資源であるが、現状十分活用されているとはいえない。
- ・ はーばりー、今治商店街、辰の口公園は、平日・休日ともに比較的滞留行動がみられ、歩行回遊動線の拠点となるポテンシャルがみられる。



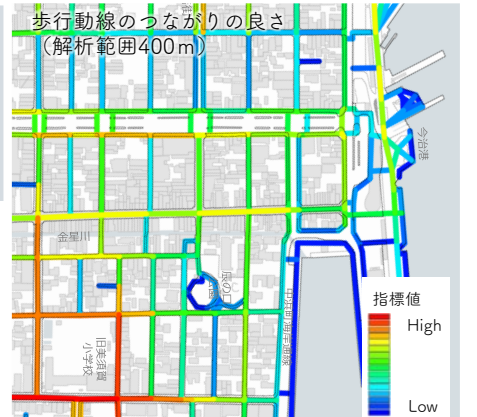
広小路（今治港線）（撮影 北村 徹）



イベント時の新町商店街



平日の滞留行動の分布状況
はーばりー、今治商店街や辰の口公園周辺で、比較的多くの滞留行動がみられる



歩行動線のつながりの良さ（解析範囲400m）
広小路は、広幅員の車道により、歩行動線のつながりを分断する要素となっている

エリアの公共空間デザイン戦略

- B-①：** 広小路（今治港線）を受ける港側の歩行動線を改善し、港と街のつながりを強化する。広小路は、管理者である愛媛県と連携し、市民の憩いの場となり今治の顔となるシンボル性の高い街路として整備・活用を検討する。
- B-②：** 開放感があり、特徴のある良質な店舗が少しずつ増えている新町商店街を、新規店舗のチャレンジの場として活用する。平時からイベント時まで沿道店舗が使えるテラスなどの街路デザインを検討する。商店街南側の金星川を活かした水辺空間の創出を検討する。
- B-③：** 平日・休日ともに滞留行動がみられた辰の口公園を、歩行回遊動線の拠点として位置づけ、都市内の広場としての機能を持たせつつネットワーク化を検討する。

都市基盤整備とエリアマネジメントの検討例

新町商店街



都市基盤整備の提案

- ・ 新町商店街を、チャレンジの場として実験的に活用
- ・ 平時からイベント時まで沿道店舗が使えるテラスなど商店街の空間活用の検討

想定されるエリアマネジメントと課題

- 実験的な空間活用のプログラム化と出店等へつながるアセットマネジメントの体制構築
 - 商店街内建物の改修や更新に関する継続的検討
 - 港と街をつなぐ結節点としての拠点づくり
 - 港と近接する立地を活かしたターゲットの拡大
 - 商店街および各商店の特徴・ポテンシャルの活用 など
- （凡例） ○想定されるエリアマネジメント ●課題



新町商店街の将来イメージ

各エリアのデザインノート

C 広小路(今治港線、中央部)・今治商店街



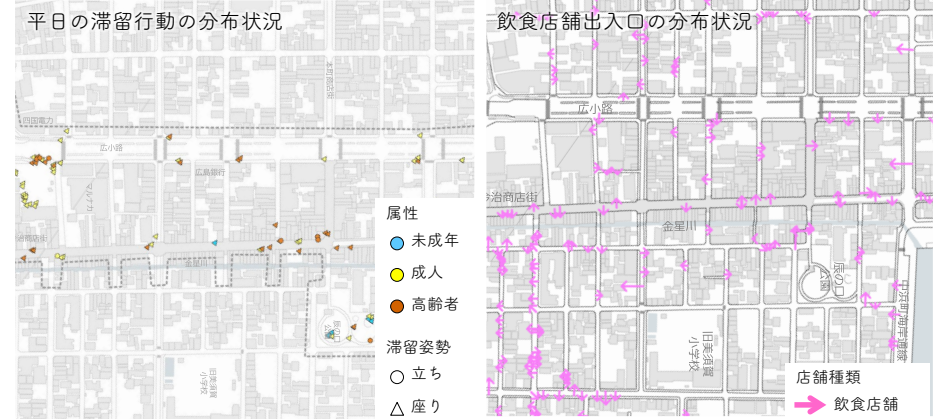
エリアの現状分析・課題

- ・広小路は、広幅員に対し交通量が少ない。市民寄付で植樹されたクスノキが残るシンボリックな街路である。
- ・広小路(今治港線、中央部)は、商店街を含め南北に横断する歩行者がみられる。港側に比べ歩行者が多い。
- ・今治商店街の中央部は、店舗が集積しているがシャッターの閉まっているお店も多い。近年新規出店もみられる。平日もお店を見る、会話をするとといった滞留行動がみられる。土曜夜市やこどもが真ん中フェスタなどイベント時は、屋根のある空間が活用され、多くの住民が集まる。
- ・イベントの実績の蓄積から屋根付き広場としての活用可能性がある。
- ・本町商店街は、寺町など北側のエリアへの重要なアプローチであるが、現状歩行者が少ない。
- ・商店街南側には、長く経営している飲食店などが残る。



広小路(今治港線)のクスノキ

イベント時の今治商店街



今治商店街では、現状、高齢者層の方の滞留行動が多くみられる。

旧小学校の西側は、最も飲食店舗が集積しているエリア

エリアの公共空間デザイン戦略

- C-①:** 広小路(今治港線)は、管理者である愛媛県と連携し、既存のクスノキを活かしつつ、グリーンインフラの導入を検討し、市民の憩いの場となるとともに、今治の顔となる緑豊かなシンボル軸として整備を検討する。現状みられる商店街を含めた南北方向の歩行回遊性を活かすきめ細かい空間構成とする。
- C-②:** 今治商店街は、高齢者を含めた平日の既存の滞留行動を活かしつつ、イベント時の空間活用の実績を踏まえ、子供の遊び場等屋根のある広場空間としての活用を検討する。寺町方面へ続く本町商店街とのつながりも強化する。
- C-③:** 金星川の水辺を活用した居場所を整備し、古くからの飲食店や、旧小学校のある商店街南側とのつながりを強化する。

都市基盤整備とエリアマネジメントの検討例

広小路(今治港線)

グリーン・アベニュー

既存樹を活かした緑豊かな街路

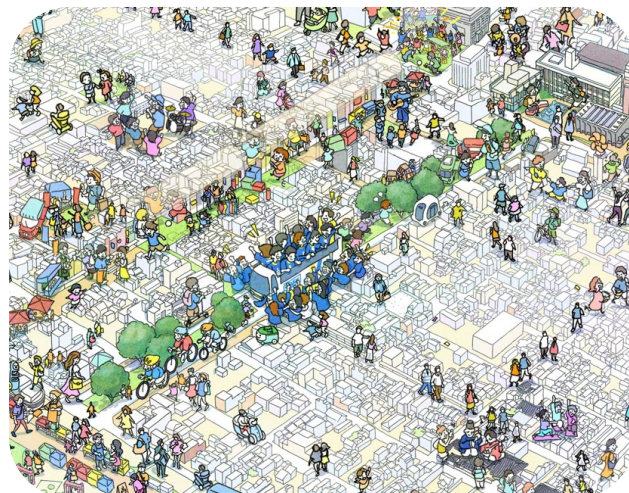
都市基盤整備の提案

- ・既存の街路樹を活かし、グリーンインフラを導入しながら、雨水流出抑制、都市環境や生物多様性の向上などに寄与する緑豊かな環境軸として再編

想定されるエリアマネジメントと課題

- 空間のプロモーション(イベント利用も含む)
- 植栽・環境装置の定期的なメンテナンス
- 駅・丹下建築と港を結ぶ空間的・交通的機能の検討
- モビリティとグリーンインフラそれぞれの利活用検討 など

(凡例) ○想定されるエリアマネジメント ●課題



広小路(今治港線)の将来イメージ

今治商店街

プレイ・ストリート

子どもの遊ぶ屋根付き広場

都市基盤整備の提案

- ・商店街を屋根付き広場と捉え、遊具や人工芝などを設置して子どもの遊びを誘発する空間にデザイン

想定されるエリアマネジメントと課題

- まちなかの遊休不動産の流動化(サブリース等)
- アーケードの有効活用(通年での利用プログラム)
- 新旧機能共存の商店街におけるブランド戦略
- エリアリノベーションに向けた活動・運営主体の存在
- 個々の活動を有機的に結びつける思想と主体の検討 など

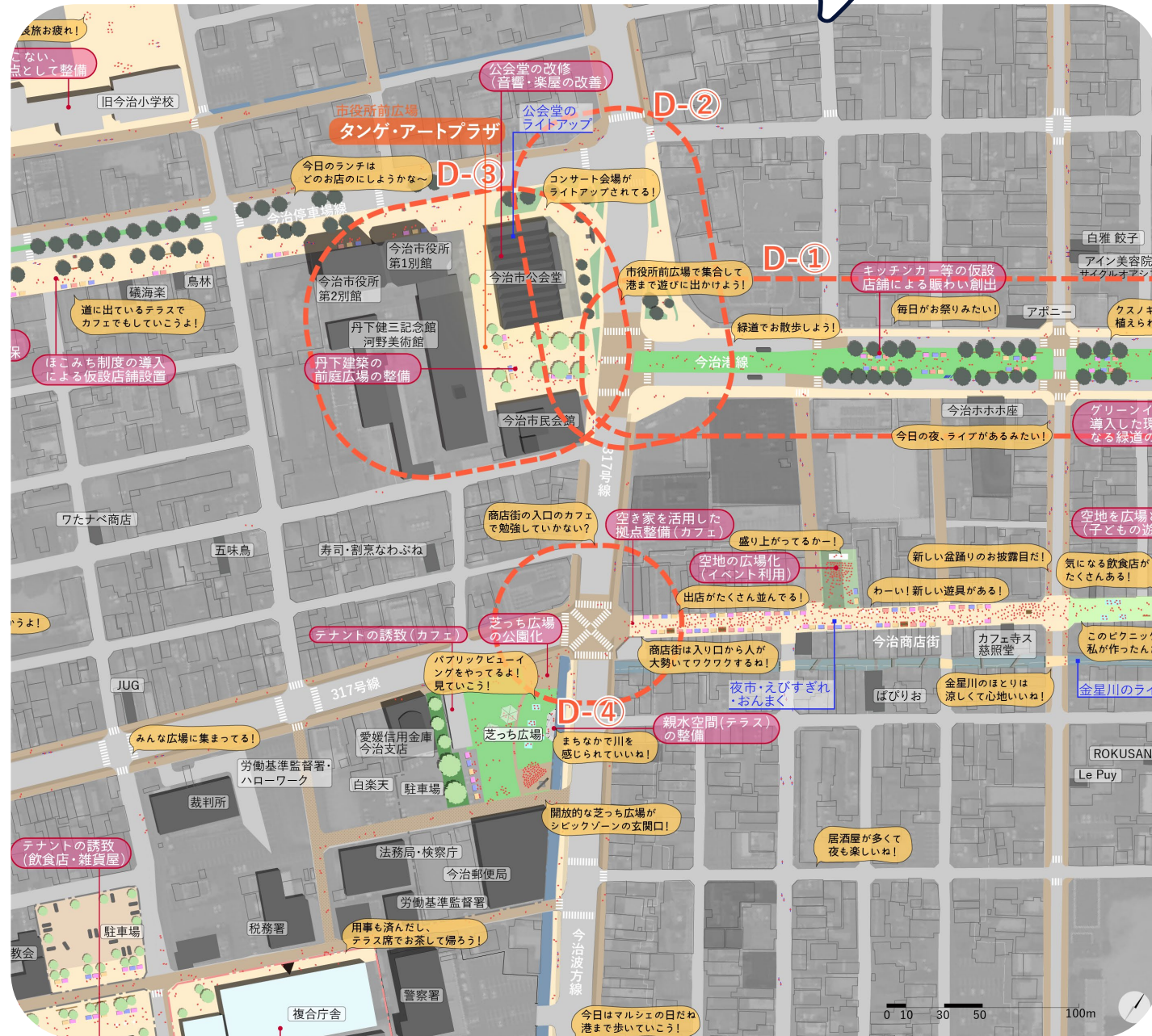
(凡例) ○想定されるエリアマネジメント ●課題



今治商店街の将来イメージ

各エリアのデザインノート

D 広小路(今治港線、市役所側)・ドンドビ交差点・市役所



都市基盤整備とエリアマネジメントの検討例

市役所前広場

タンゲ・アートプラザ
丹下建築ミュージアムを引き立てる
前庭広場

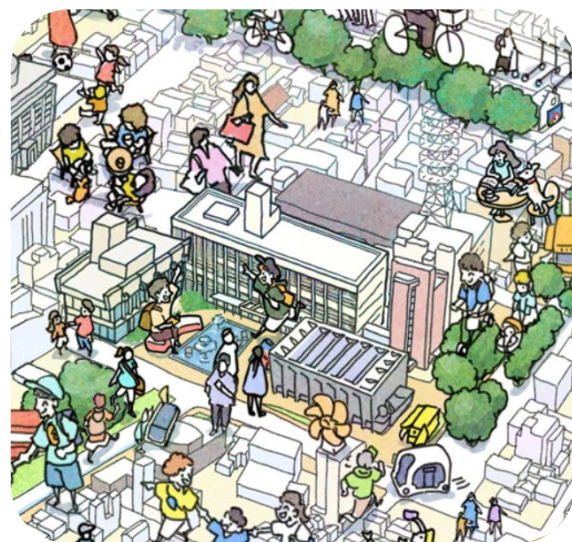
都市基盤整備の提案

- 丹下健三の建築群のリノベーション・活用と一体で検討し、名建築に囲まれた広場として再編
- まちに開かれたミュージアムを象徴する広場デザイン

想定されるエリアマネジメントと課題

- 丹下建築ミュージアム（仮）との一体的な管理運営
- 景観保全のための環境美化
- 港と駅を結ぶ軸の中間に存在する象徴的な空間
- 現在活用されている駐車場スペースの新規確保 など

(凡例) ○想定されるエリアマネジメント ●課題



市役所前広場の将来イメージ

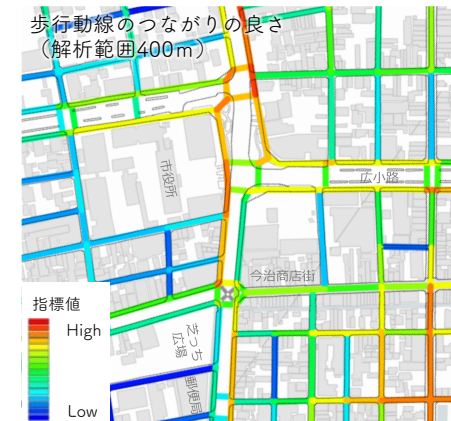
エリアの現状分析・課題

- 広小路(今治港線、市役所側)は、商店街を含め南北に横断する歩行者がみられ比較的歩行者が多い。
- 市役所前交差点は、かぎ型に屈折する特徴的な場所であるが、交差点が大きく横断しづらい。滞留空間も周辺街区との連携がなく効果的に使われてない。市役所と広小路の関係にて、印象的なビスタ・アイストップの好条件がいかされておらず、自動車中心の交差点の印象が強い。
- 集積する丹下建築の活用について、広小路や周辺エリアとの連携を踏まえた議論が必要である。
- ドンドビ交差点は、今治商店街の玄関口として人々を迎え入れる雰囲気少なく、イベント時は過度に混雑し信号待ち、通行の快適性が低い。今後、ゲート性の演出や魅力的な滞留空間創出の可能性はある。
- 国道317号線沿いの水路は交差点付近で暗渠となり活用されていない。

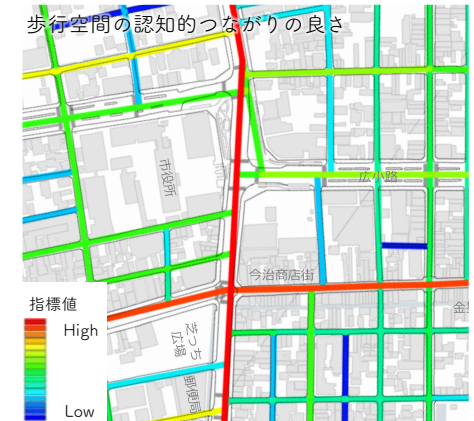


市役所前広場 (撮影 北村 徹)

イベント時の商店街入り口



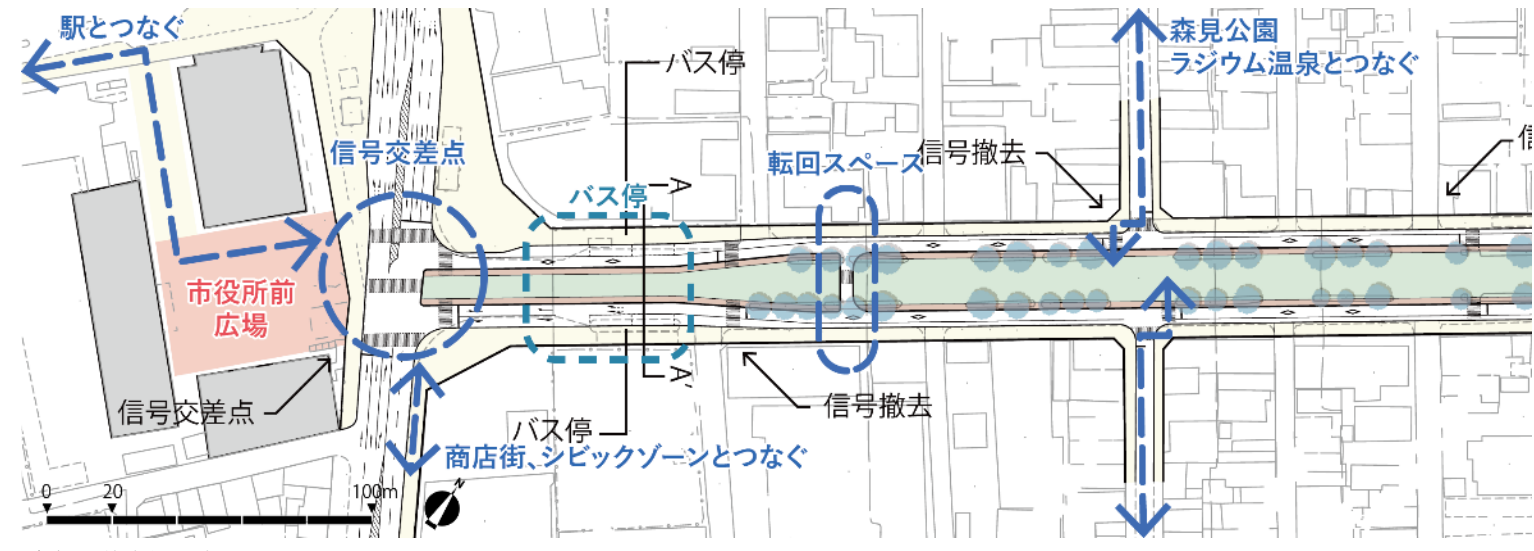
動線が屈折している市役所前交差点周辺は、駅方面、寺町、商店街、シビックゾーンなど、各エリアを隔てる要素となっている。



ドンドビ交差点は、最も認知されやすい交差点の一つで、街の印象に影響を与えやすい場所。

エリアの公共空間デザイン戦略

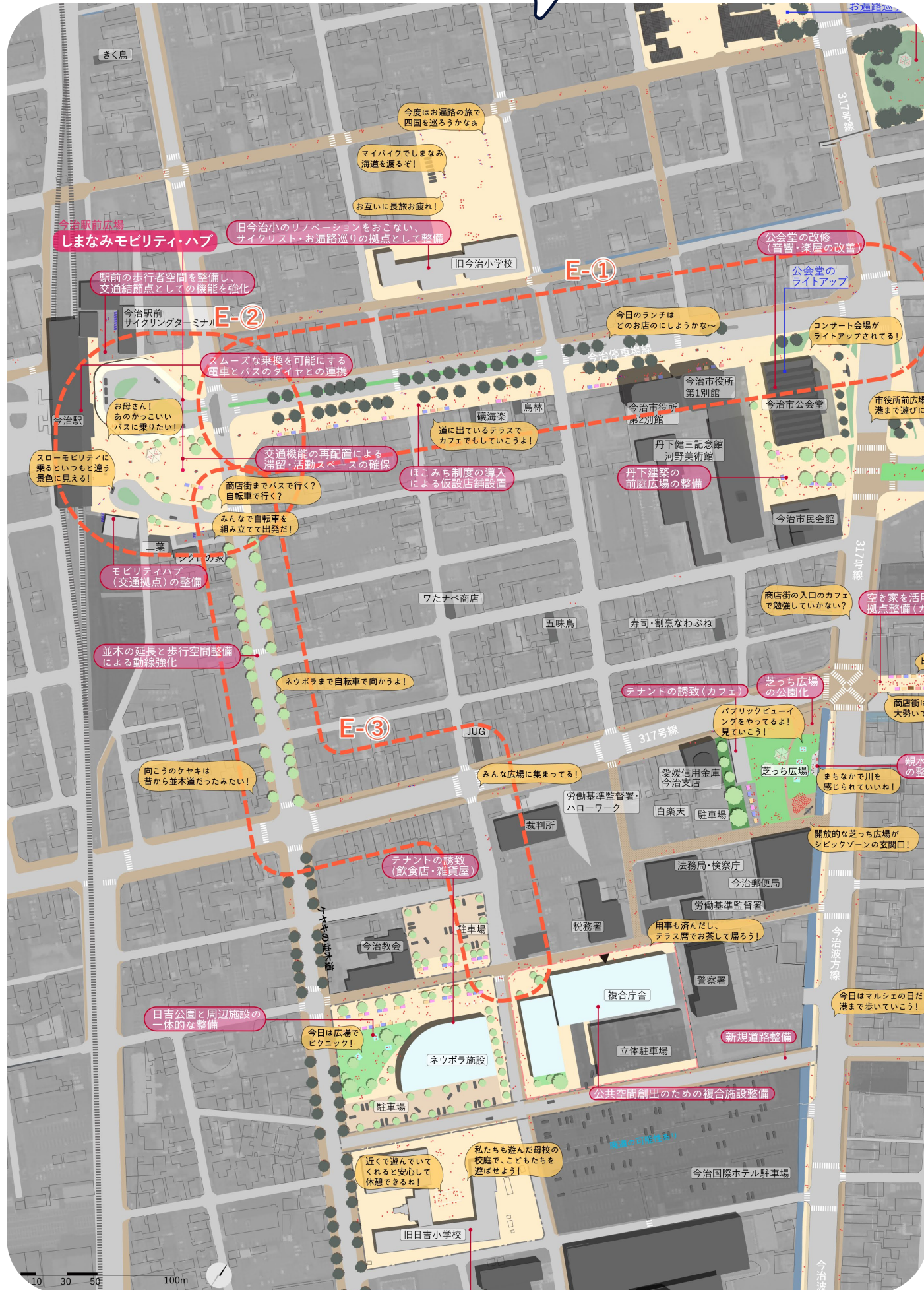
- D-①**：広小路(今治港線)は、丹下建築である市役所等の建築と港をつなぐ、シンボル性の高い街路として整備を検討する。国道317号(今治波方港線)の横断部は街路のシンボル性が連続するあり方を検討する。
- D-②**：かぎ型に屈折する特徴的な市役所前交差点は、広小路の再整備と並行して、歩行動線のあり方、滞留空間の再配置、周辺敷地との一体的な活用などを検討し、歩行回遊性の拠点としての整備を検討する。
- D-③**：市役所前の広場(駐車場)は、丹下建築に囲まれた広場として広小路と一体で再編を検討する。
- D-④**：ドンドビ交差点は、今治商店街の玄関口としてのゲート性をもち、イベント時も歩行者回遊に寄与し、滞留のしやすい空間を検討する。国道317号線沿いの水路を活かした水辺空間を検討する。



市役所前広場と広小路のつながりのイメージ

各エリアのデザインノート

E 今治駅周辺



エリアの現状分析・課題

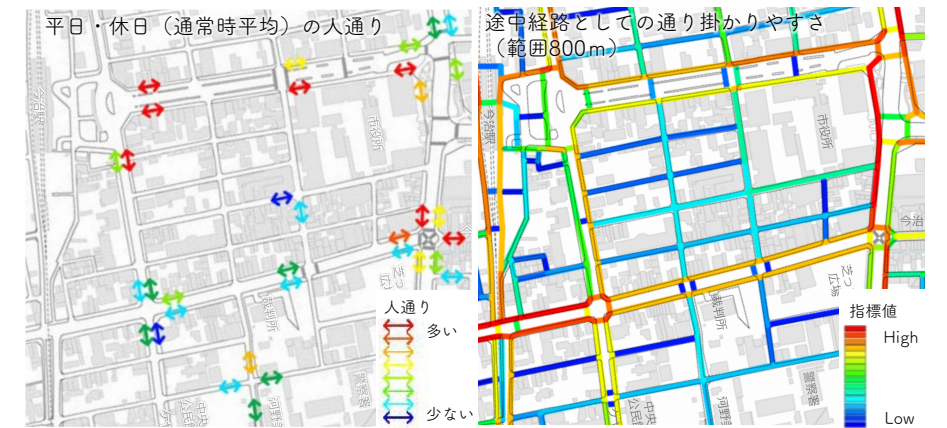
- 広小路（今治停車場線）もクスノキが残る広幅員道路で、今治市役所と今治駅を行き来する歩行者が多い。沿道はオフィスビルが多い。
- 今治駅周辺は、鉄道に加え、多くの路線バスが発着し、サイクリングターミナルが整備されるなど、交通拠点としての機能の充実が期待される。一方、駅前広場の面積の多くを駐車場とロータリーが占め、車中心の茫洋とした印象を与える。まち歩きや移動の拠点として街中へのアクセスがわかりづらく、拠点として十分機能しているとはいえない。
- 今後、歩行者空間の創出や、多様なモビリティ活用の拠点となるモビリティハブへの展開の可能性がある。
- 駅前から裁判所の西側を抜け、シビックゾーンの中央部に向かう歩行者がみられる。



広小路（駅前停車場線）



今治駅前広場



駅周辺は停車場線、特に東側歩道の人通りが多い。裁判所の西側街路でも比較的多くの人通りがみられる。

駅前には途中経路として利用されにくい。停車場線、ケヤキ並木、今治街道で大きなブロックが形成され、その内部や周辺の回遊性が低い。

エリアの公共空間デザイン戦略

- E-①：広小路（今治停車場線）は、クスノキが残る広幅員の道路環境と、今治市役所と今治駅を行き来する歩行者の存在を活かし、道路幅員の再構成による歩行者空間の拡幅、ほこみち制度の導入による利活用の促進等を図る。
- E-②：今治駅周辺は、駅と街とのつながりを踏まえたロータリー形状の再検討による歩行者空間の整備を検討し、バス、自動車、自転車、グリーンスローモビリティなどの拠点となるモビリティハブとしてのあり方と検討する。
- E-③：現状みられる、駅前から裁判所の西側を抜け、シビックゾーンの中央部に向かう歩行回遊性をいかし、ケヤキ並木を介した駅とシビックゾーンのつながりを強化する。

都市基盤整備とエリアマネジメントの検討例

今治駅前広場



しまなみ
モビリティ・ハブ
複合機能を備えた交通拠点の広場

都市基盤整備の提案

- ・サイクリングターミナル等と連携し、バス、自転車、グリーン
スローモビリティなど多様な交通モードの乗換拠点となり、人
の活動が生まれるモビリティハブとして検討

想定されるエリアマネジメントと課題

- モビリティマネジメントの運営主体
- 滞留・活動スペースの有効活用
- 滞留・活動スペースでの日常的な仕掛け
- 収益源になりづらいモビリティマネジメントの継続性 など

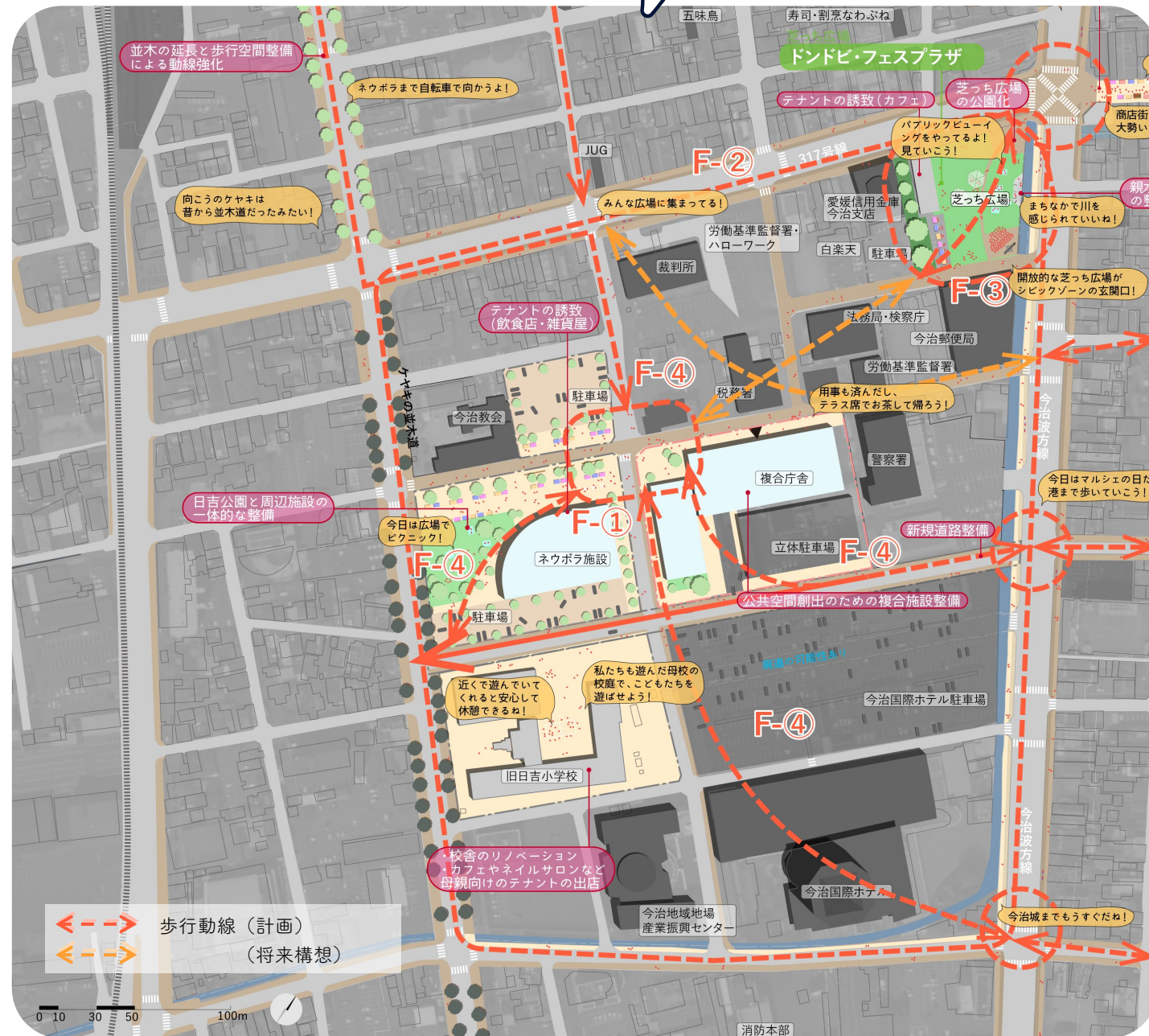
(凡例) ○想定されるエリアマネジメント ●課題



今治駅前広場の将来イメージ

各エリアのデザインノート

F シビックゾーン周辺



エリアの現状分析・課題

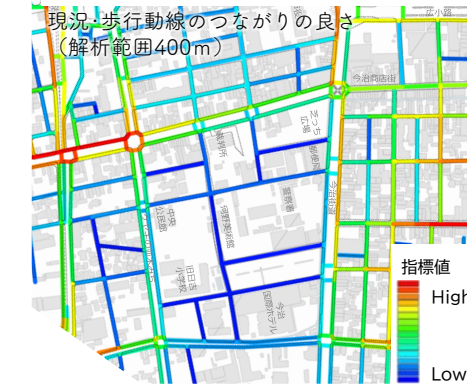
- シビックゾーンは、ネウボラ拠点施設の整備予定地であり、今治市役所の移転先の候補でもある。また周辺の官公庁施設の老朽化による更新の需要が高まっており、エリアの一体的なあり方の議論が必要。
- シビックゾーンは、中心市街地の中でも街区が大きく、かつ隣接するエリアとの街路同士の接続も悪く、建物の開口も少ないため、歩行回遊性のポテンシャルが低く、実際歩行者が少ない。
- 芝っち広場（大丸跡地）は、中心市街地の中心部かつ、周辺エリアをつなぐ重要な位置にあるが、管理運営上の課題から十分利用されていない。整備・活用のポテンシャルは高い。
- 各公共施設の更新にあたっては、中心市街地全体の回遊性向上に寄与するため、施設更新の機会を活かした、ゾーン全体での歩行動線、滞留空間の創出の検討が必要。



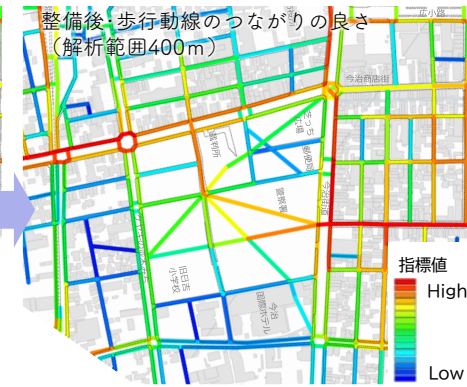
シビックゾーン（旧日吉小学校）



イベント時の芝っち広場
(<https://miton-imabari.jp/publicviewing2022/>)



現況のシビックゾーンの街区内は、動線のつながりが弱く、人の活動が集まりにくい。



整備後、歩行動線のつながりの良さ（解析範囲400m）
317号線と今治街道から、シビックゾーン内部へ動線を通すことで、歩行回遊性の向上・周辺への波及が期待できる。（提案）

エリアの公共空間デザイン戦略

- F-①：**ネウボラ拠点施設、複合庁舎等、検討される公共施設整備を連携し、シビックゾーンの公共サービス機能、災害対策や市民活動の拠点性の向上を図る。
- F-②：**歩行回遊性のポテンシャルが低く、歩行者が少ないシビックゾーンに対して、施設更新の機会を活かし、エリア内の歩行動線、滞留空間を創出し、敷地内だけではなく、隣接エリアとのつながりを強化する。
- F-③：**芝っち広場（大丸跡地）は、日常・イベント時に使いやすい広場として再整備を検討するとともに、ドンドビ交差点から、シビックゾーン内部へと人を促すエントランスとしての役割を果たすよう検討する。
- F-④：**ネウボラ施設整備や候補地となっている市庁舎移転を契機に、歩行回遊性を向上する動線、滞留空間の創出を検討する。具体的には、両施設の境界部の拠点広場とそこから隣接街区につながる動線を検討する。

都市基盤整備とエリアマネジメントの検討例

芝っち広場



ドンドビ・フェスプラザ

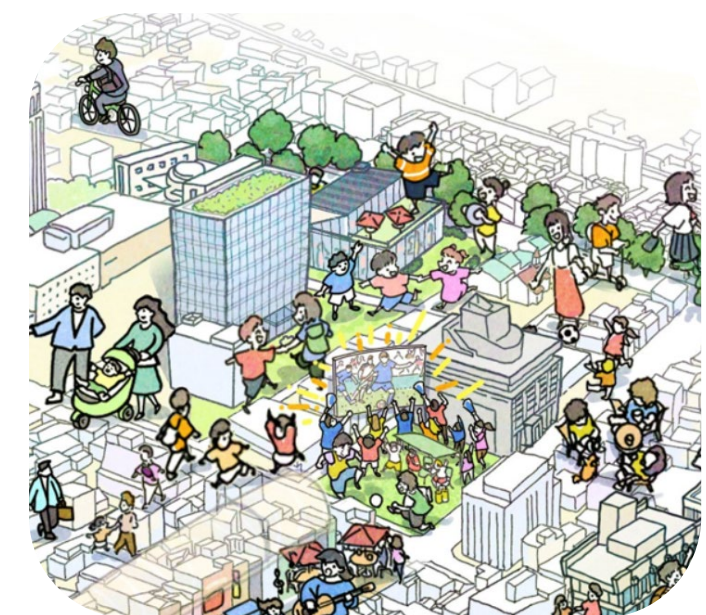
歓声と熱気が人々を呼び込む
祝祭広場

都市基盤整備の提案

- ゲートに囲まれた広場をまちに開き、日常・イベント時に大勢の人が集まることのできる広場として再編
- 既存のイベント活用の継続に加え、パブリックビューイング、映画鑑賞会等での活用を検討

想定されるエリアマネジメントと課題

- 芝っち広場の有効活用の展開
 - 公共資産の定型・収益化（利用受付窓口代行等も含む）
 - 公共施設の管理運営、環境美化、空間の魅力化
 - 企業型エリマネ活動やイベント等の実施実績
 - 面的な管理運営体制を見据えた検討 など
- （凡例） ○想定されるエリアマネジメント ●課題



芝っち広場の将来イメージ

【参考】（仮称）今治版ネウボラ拠点施設整備基本計画（令和6年5月策定）

（仮称）今治版ネウボラ拠点施設整備基本計画とは令和5年3月に策定された「（仮称）今治版ネウボラ拠点施設整備基本構想」をもとに、新たに整備する施設の整備方針等の具体化を図るものです。

【中心市街地に関する部分（主な内容を抜粋）】

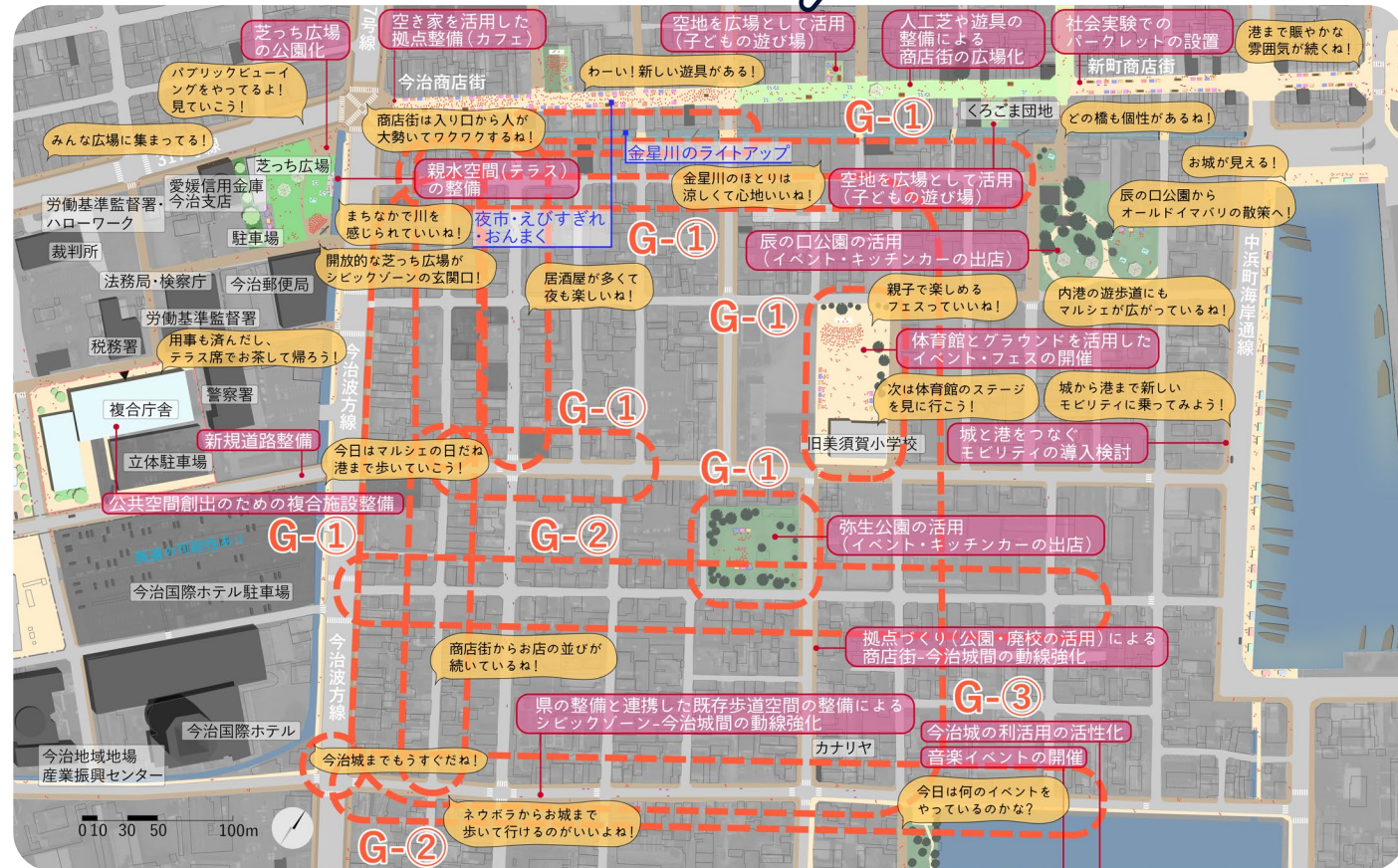
- 敷地条件等（事業用地の選定）
旧日吉小学校の一部と、隣接する中央公民館、日吉公園、旧中央乳児保育所、旧働く婦人の家を含む一団の公有地を事業用地として選定
- 基本理念・基本方針
「つどいつながりはぐくむ みんなの居場所～こどもが輝く未来を創る～」
【はぐくむ】 全ての子育て世帯が安心して交流し気兼ねなく相談できる場所
【つながり】 成長や発達過程に応じて支援を必要とする人に必要な支援が提供できる場所
【つどい】 大人も子どもも多世代が集いわくわくと子育てを楽しめる場所
- 施設利用イメージ
・気軽に相談できる場所／利用者に寄り添った支援
・こどもの居場所/多様な活動のサポート
・多世代の活動・交流の場 ・中心市街地活性化の拠点 等

施設利用のイメージ（中心市街地活性化の拠点）



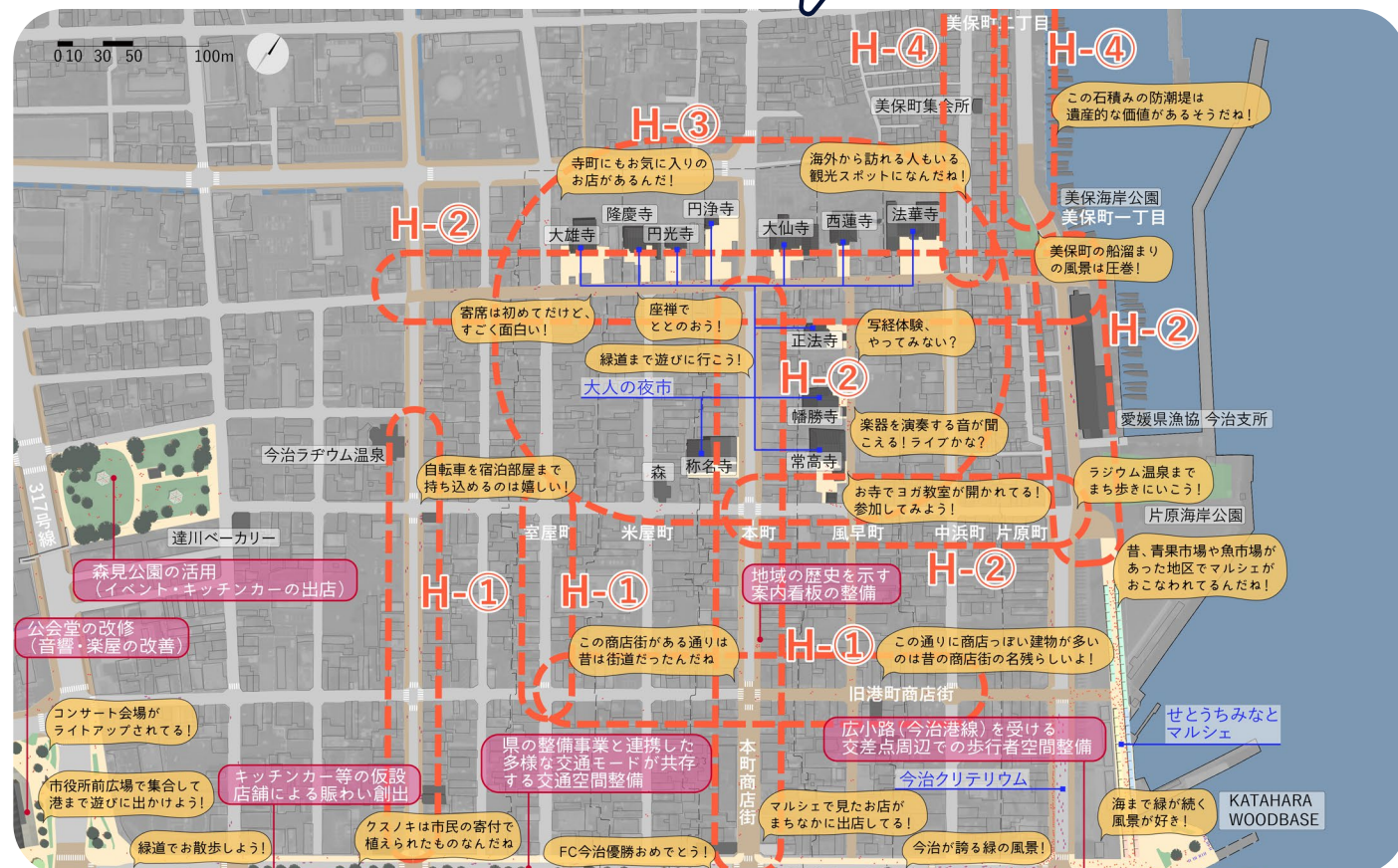
各エリアのデザインノート

G 松本町周辺



各エリアのデザインノート

H 寺町周辺～美保町



G 松本町周辺 エリアの現状分析・課題

- 松本町周辺は、昔からの繁華街として娯楽・飲食店の面的な集積がみられる。エリア内に弥生公園や、統合された吹揚小学校などが位置する。今治商店街を横断して松本町周辺にアクセスする歩行者がみられる。
- 今治城周辺に近接中心性が比較的高いエリアがあり、周辺の改変によって認知されやすくなる可能性があり、また弥生公園周辺に媒介中心性が高い部分がみられるなど、今後の都市整備によって、シビックゾーンと今治城をつなぐエリアとして歩行回遊性の向上への寄与が期待される。

エリアの公共空間デザイン戦略

- G-①:** 繁華街として娯楽・飲食店の面的な集積や、エリア内の公園等の公共空間をいかし、エリアとしての回遊性・滞留機能の向上を図る。
- G-②:** 歩行動線のつながりの良さをいかし、シビックゾーンと今治城をつなぐエリアとして歩行回遊性の向上へ寄与する。
- G-③:** 既存の民間の取組がみられるため、それらの活動同士、および芝っ広場や街路整備等の公共事業による都市基盤整備との連携をはかる。

H 寺町周辺～美保町 エリアの現状分析・課題

- かつての今治の中心的な場所として栄えていたエリアであり、11の寺社が残るなど城下町の面影を残す。寺社は音楽等のイベント会場に活用されている。老朽化が進行する木造家屋や空き家が多くなっている。
- エリアの特徴や、寺社のイベント活用の実績を活かしたまちづくりの可能性はある。
- 美保町は、古くからの漁師町であり、歴史的な石積みの防潮堤や、海沿いに漁船が連なる風景など、海外からの旅行者に人気がある。
- 漁師町の風景や、歴史的な石積みの防潮堤などの資源と、しまなみ海道と中心市街地をつなぐ立地を活かしたツーリズムの可能性はある。
- 媒介中心性をみると、周囲とのつながりが弱く、通りがかりにくい街路が広がる一体がある。

エリアの公共空間デザイン戦略

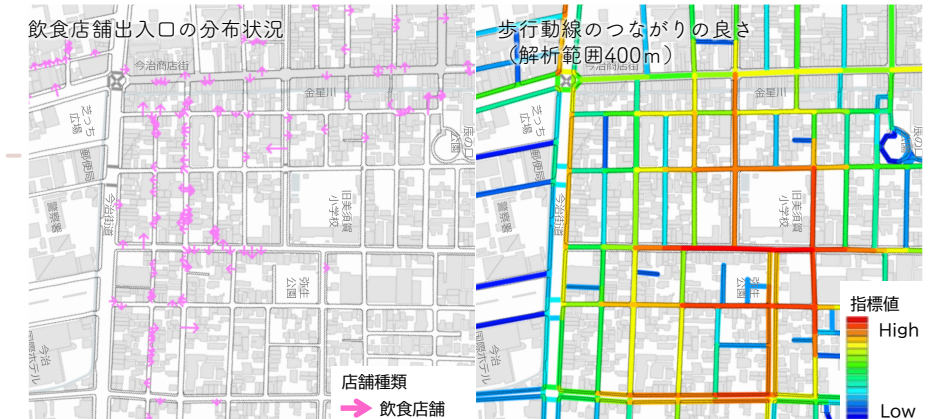
- H-①:** 古くからの店舗の集積や、11の寺社が残るなど城下町の特徴を活かし、他地域にはない今治の魅力を伝えるエリアとして将来像を検討する。
- H-②:** 通り掛かりやすい経路の特徴をいかし、今治港、美保町方面と中心市街地をつなぐ回遊性の向上をはかる。
- H-③:** 寺社でのイベントなど既存の活動の展開、連携をはかる
- H-④:** 石積みの防潮堤や、漁船の風景、特徴的な街並みなど、美保町の特徴を活かした拠点づくりを検討する。



松本町大作的

(https://miton-imabari.jp/matsumotochodaisakusen-2024pr/)

松本町周辺



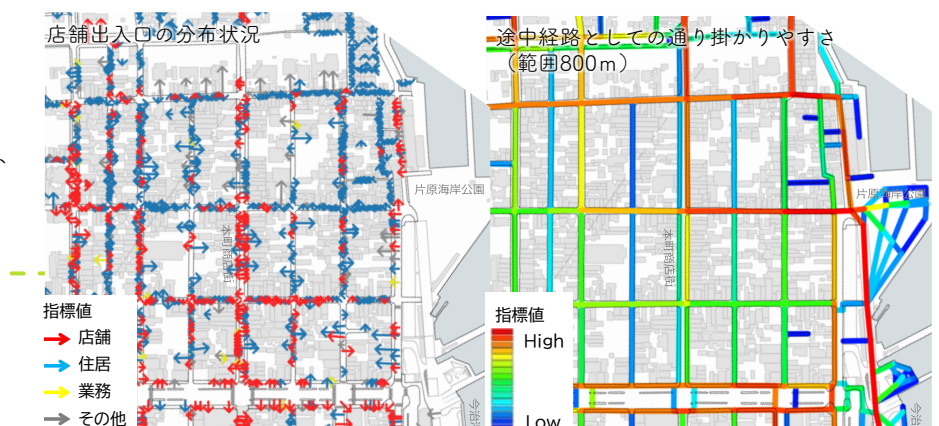
松本町周辺には飲食店の出入口が密度高く分布しており、特に夜間においては、繁華街の雰囲気を感じられる沿道となっている。

今治城周辺の境界は、動線のつながりが良く、歩いて回遊しやすい街路構成となっている。



本町商店街周辺

美保町周辺



寺町周辺は店舗は少なく、住宅の多いエリアとなっている。

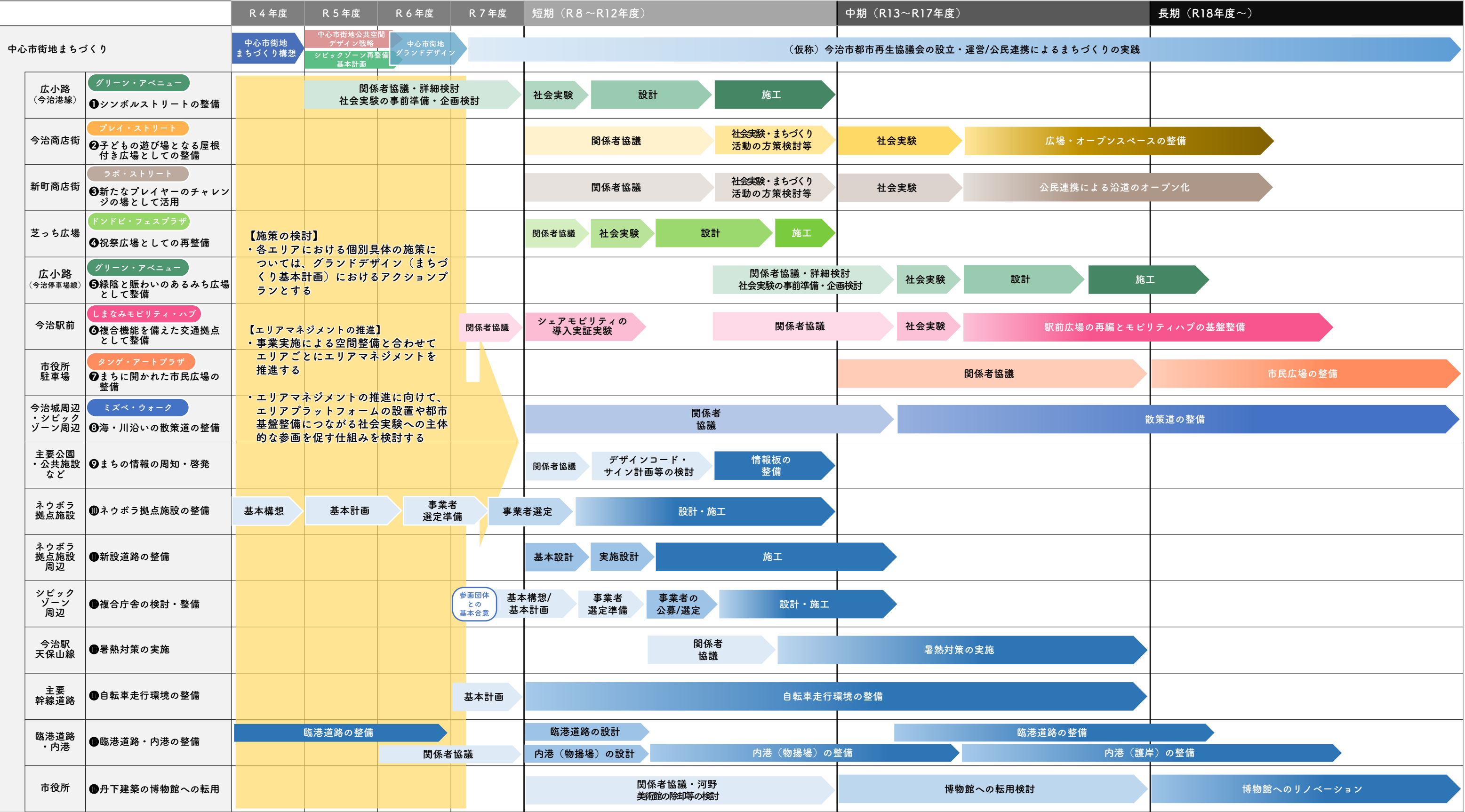
ところどころでT字路があり、途中経路として利用しやすい街路とそうでない街路がエリア内に混在している。

将来ビジョンの実現化方策

■事業の実施イメージ

将来ビジョンの実現に向けた取組は長期間となるため、段階的に進めていく必要があります。デザインノートで示されている方向性に基づき、中心市街地内の既存の拠点の強化や新たな拠点の創出を図るとともに、それらを繋ぐネットワーク空間の充実を図ります。

将来ビジョンの実現に向けたロードマップ



■エリアマネジメントの推進

中心市街地は、各エリアによってまちづくりの活動状況等の段階が異なります。グランドデザインの作成にあたって、市民や関係機関等の様々な主体との意見交換を行ってきましたが、今後も引き続き、各エリアとの協議を通して、中心市街地におけるエリアマネジメントの推進に向けた、エリアプラットフォーム（行政やまちづくりの担い手などが集まって、まちの将来像を議論し・描き、その実現に向けた取組について、協議・調整を行うための場）の設立検討や都市基盤整備につながる社会実験への主体的参画等へつなげていきます。

※今後策定する個別の整備計画や整備手法に応じて、整備の内容や時期などが変更になることがあります。引き続き、社会情勢等に留意しながら、市民や関係者の意見を踏まえ、取組を進めていきます。